

歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議第1次報告(平成21年1月)
を踏まえた平成24年度フォローアップ調査まとめ

平成24年12月11日
歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議
フォローアップ小委員会

1. フォローアップ調査の目的

- 歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議（以下「協力者会議」という。）では、平成21年1月に「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議第1次報告～確かな臨床能力を備えた歯科医師養成方策～」(以下「第1次報告」という。)をとりまとめ、以下について提言している。
 - ①歯科医師として必要な臨床能力の確保
 - ②優れた歯科医師を養成する体系的な歯学教育の実施
 - ③歯科医師の社会的需要を見据えた優れた入学者の確保
 - ④未来の歯科医療を拓く研究者の養成
- これを踏まえ、平成22年9月に、第1次報告の提言を踏まえた各歯学部での改善状況についてフォローアップ調査を行うため、協力者会議の下にフォローアップ小委員会(以下「小委員会」という。)が設置された。
- 小委員会は、平成23年5月にフォローアップ調査の結果をまとめ(以下「平成22年度フォローアップ調査まとめ」という。)、各歯学部に対して課題を指摘し、歯学教育の改善に向けた取組を促した。
- 平成24年度フォローアップ調査は、平成22年度フォローアップ調査まとめで指摘した課題に対する各歯学部での改善状況等を把握・分析し、改善に資することを目的として実施したものである。

2. フォローアップ調査の観点

- 平成24年度フォローアップ調査は、平成22年度フォローアップ調査に引き続き、以下の観点(指標)を基本に実施した。【別添1参照】

- ①入学定員の削減率が低い。
- ②入学定員の超過、未充足がある。
- ③入学者選抜における試験競争倍率が低いなど、今後、優れた入学者の確保がさらに困難となることが懸念される。
- ④歯科医師国家試験の合格率が低い、最低修業年限での国試合格率が低いなど、優れた歯科医師を養成する体系的な歯学教育に問題がある。
- ⑤その他、臨床実習の評価の未実施、参加型臨床実習の未実施など歯科医師として必要な臨床能力の確保に問題がある。

3. フォローアップ調査の実施経過 【別添4参照】

- 小委員会は、平成22年度フォローアップ調査まとめて課題を指摘され、又は【別添1】の指標に該当する合計21の歯学部に対し、指摘された課題や指標に関する改善状況について書面調査を実施した。
- 書面調査の結果、不明な部分の把握や改善のための取組の確認等が必要と判断された13の歯学部に対し、ヒアリングを実施した。
- さらに、ヒアリングの結果、特に実地調査において確認が必要な事項があると判断された6つの歯学部に対し、歯学生等との意見交換や授業及び臨床実習の見学等による実地調査を実施した。
- なお、ヒアリング及び実地調査は、不明な部分等を確認するために実施したものであり、ヒアリング及び実地調査を実施した歯学部が直ちに問題があるということではない点にご留意いただきたい。
- フォローアップ調査の過程で各歯学部から提出いただいた調査票（フォローアップ調査シート等）を文部科学省ホームページに掲載している。
URL : http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/035/index.htm

4. フォローアップ調査の結果

- フォローアップ調査の結果、小委員会としては、以下のような所感を得た。

(1) 全体的な取組状況

多くの歯学部において第1次報告の提言を踏まえた改善の取組に着手し、平成22年度フォローアップ調査以降、歯学教育の改善が進んでいることがうかがえた。例え

ば臨床実習において自験数を増加させている歯学部や Advanced OSCE を導入する歯学部が増えてきているなど、平成 22 年度フォローアップ調査の効果が表れてきており、今後の更なる改善が期待できた。参考になるとと思われる改善の取組事例等を【別添 3】にまとめたのでご参照いただきたい。

一方で、第 1 次報告への対応が極めて不十分であり、質の高い歯科医師を養成する観点から、現状の教育課程及び入学者選抜に更なる改善が必要な歯学部もあった。当該歯学部には猛省を促し、今後の教育内容の改善や入学定員の見直し、入学定員（募集人員）の厳正な管理、優れた入学者の確保などの対応を強く望みたい。

また、国民が求める優れた歯科医師を養成するため、全国の各歯学部に対しては、本まとめで指摘した課題を踏まえ、引き続き歯学教育の改善・充実に向けた取組が行われることを期待する。

(2) フォローアップ調査で見られた課題

① 募集人員の大幅な超過等

これまで全国の各歯学部は、歯科医師抑制に関する閣議決定（S61.7、H10.5）及び質の高い歯科医師を養成する観点を踏まえ、入学定員・募集人員の削減及び募集人員内での入学者の受け入れについて努力してきたところである。しかし、今年度、一部の歯学部で大幅に募集人員を超過して学生を受け入れる事例が生じたことは、非常に重大な問題と認識している。また、編入学試験による募集人員の未充足の解消を行っている大学もみられた。このような事例が許容されるとすれば、他の歯学部でも同様のことを実施する可能性が危惧される。超過させた歯学部はもとより、各歯学部には、国民から信頼される歯科医師養成のためにも、適切な対応を求めたい。

② 診療参加型臨床実習の自験の定義の共有

診療参加型臨床実習の自験の定義が各歯学部ごとに異なっており、全国的に統一認識されていないという問題があった。一連の治療の流れを 1 人の患者で学ぶことが自験の本来の意義であるが、いくつかの歯学部では、一連の治療の流れを非常に細かく区切って一部しか実施していない場合や、一連の治療を順番どおりに実施していない場合でも自験の一症例として扱っていた。

そのため、小委員会では、【別添 5】「フォローアップ調査における診療参加型臨床実習に関する用語の定義」のとおり自験の定義を整理したので、ご参考にしていただきたい。

③ 診療参加型臨床実習の改善・充実、到達目標の設定、臨床能力評価の状況

臨床実習の遂行に必要な大学病院の患者数が明らかに不足している歯学部が多く見られた。患者確保のために最大限努力することが大原則であるが、それでも患者が確保できない場合は、シミュレーター等を用いた実習により補完するとともに、臨床能力の評価のため、シミュレーター等を用いた Advanced OSCE を実施するなど、臨床能力の質を担保することが必要である。

また、ローテート型の臨床実習では、各診療科に任せきりにせず、臨床実習を統

括する組織や教職員を置くなどにより、学生の臨床実習の進捗状況を一元的に管理し、学生によって差が大きくなるよう調整する必要がある。

さらに、自験数を増加させるためには、学生診療室を設けることにより、患者の同意を得やすいよう努めるとともに、学生が診療参加型の臨床実習を行うことを前提とした環境を作ることも一つの方策である。

加えて、大学や教員の取組姿勢によっては、学生が十分な臨床経験を積むことができていない例も見られることから、教員に対するFD（ファカルティ・ディベロップメント）の実施等により、教育能力及び意識を高め、教員間及び診療科間で認識を統一することが必要である。

④優れた入学者の確保

競争倍率が限りなく1倍に近づくなど入学者選抜が機能していないと思われる例が見られた。そのような歯学部では、学生の基礎学力を担保するために入学後に補講等を実施している例も見られた。補講の教育内容は大学入学以前に獲得しておくべきものがほとんどであり、基礎学力が確保されていない学生を入学させているとしか思えない例もみられた。歯科医師のような人の命や健康に関わる専門職を養成するためには、入学時点で優れた学生を確保するための対応を行うべきである。

⑤学生の学力向上、留年率の低減、最低修業年限での国家試験合格率の向上

学生の学力向上については、CBT等の共用試験対策や国家試験対策に重点を置いていると思われる例も見られるが、人の命や健康に関わる専門職を養成する観点から、歯科医師として必要な課題解決能力や臨床能力の向上に重点を置くべきである。

また、基礎学力の向上のため、補講の実施やチューターの配置などに取り組んでいる例も見られたが、在籍者の25%以上の学生が留年している大学もみられ、抜本的な改善にはつながっていない。かなりの学生を6年次で留年（卒業留年）させている例もあり、その原因を学生の学力に求め、各大学のカリキュラム・ポリシーや教育能力を自己否定しているように思われた。入学者選抜において各歯学部のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを明確にし、それに適合した学生を入学させることも検討するべきである。

⑥研究者養成

将来の研究者養成に資するための学部教育における研究マインドの養成については、研究室配属の必修化や研究成果の発表会の開催、国際交流によるグローバルな研究者の育成など、引き続き積極的な対応をお願いしたい。

⑦教育活動の公表

フォローアップ調査の過程において、入学者選抜区分ごとの授業料・入学料・留年率・国試合格率、診療参加型臨床実習の実際など、限られた時間の中で十分に確認できなかった部分もあった。

これらの情報は、受験生や在学生にとっても有用な情報となることから、各歯学部

は、大学ホームページに掲載するなどの方法により広く公表するとともに、社会的評価を踏まえた適切な対応に取り組んでいただきたい。

⑧各歯学部の特徴ある教育

平成24年度フォローアップ調査においては、ヒアリングを実施した歯学部に対し、特徴ある教育についても併せて調査を行った【別添3参照】。各歯学部それぞれの理念等に基づいて特徴ある教育を実施することは重要であり、引き続き、積極的な取組を期待したい。

(3) 個別の歯学部における所見

【別添2】に記載のとおり。

5. 今後のフォローアップ調査の進め方

- 今後は、平成24年度フォローアップ調査まとめで課題を指摘された歯学部について、引き続き、改善状況に関するフォローアップ調査を実施する。
- また、「歯学教育モデル・コア・カリキュラム平成22年度改訂版」及びこれに準拠した「診療参加型臨床実習コア・カリキュラム事例集（案）」（平成23年度先導的歯学改革推進委託事業「医学・歯学教育の改善・充実に係る調査研究」歯学調査研究チーム）及び【別添5】「フォローアップ調査における診療参加型臨床実習における用語の定義」を踏まえ、全歯学部について、診療参加型臨床実習の改善状況等に関するフォローアップ調査を実施する。
- なお、歯学教育認証制度の基盤構築を検討しているチームが実施するトライアル評価等の情報を把握し、今後のフォローアップ調査が効率的・効果的なものとなるよう努める。

平成24年度フォローアップ調査の指標

別添1

大学名	書面 審査	ヒア リング	実地 調査	A 入学定員 (私立大学に ついては、 募集人員)	B.入学定員 削減計画		C.入学定員(募集人員)充足率					D.入学者選抜競争倍率				E.国家試験合格率(新卒)				F.最低修業年限での 国試合格率 (編入学者を除く)				
					H24入定の S60に對する 削減率	①	H22年 度	H23年 度	H24年 度	①	②	③	H22年 度	H23年 度	H24年 度	①	103回 H22年	104回 H23年	105回 H24年	①	103回 H22年	104回 H23年	105回 H24年	①
1 北海道大学				53	33.8%		100.0%	100.0%	100.0%				2.98	4.11	3.34		89.8%	86.4%	90.6%		83.3%	78.7%	76.7%	
2 東北大学	○			53	33.8%		109.1%	96.2%	100.0%				2.69	2.23	3.03		95.9%	93.9%	94.5%		80.0%	73.7%	79.3%	
3 東京医科歯科大学				53	33.8%		100.0%	100.0%	103.8%				2.89	3.07	3.03		85.5%	91.5%	90.5%		73.7%	74.5%	76.8%	
4 新潟大学				40	43.8%		100.0%	100.0%	100.0%				2.79	3.70	4.90		97.6%	88.6%	88.9%		90.0%	87.5%	85.0%	
5 大阪大学				53	33.8%		103.3%	101.9%	100.0%				2.11	2.43	2.43		93.4%	86.4%	94.6%		78.7%	59.7%	63.3%	
6 岡山大学				48	33.8%		100.0%	100.0%	100.0%				2.19	3.13	3.47		96.4%	84.7%	79.3%		82.5%	78.9%	68.4%	
7 広島大学				53	33.8%		100.0%	100.0%	100.0%				3.90	5.48	3.82		86.5%	100.0%	94.7%		70.9%	83.6%	80.0%	
8 徳島大学				40	28.3%		100.0%	100.0%	100.0%				2.41	3.87	4.79		95.7%	81.1%	83.3%		76.0%	66.0%	76.0%	
9 九州大学	○	○		53	33.8%		101.8%	101.9%	100.0%				2.92	2.92	2.89		86.3%	95.2%	88.1%		71.4%	74.6%	80.7%	
10 長崎大学				50	37.5%		100.0%	100.0%	100.0%				3.07	4.00	4.68		91.1%	88.5%	91.5%		82.0%	82.0%	70.0%	
11 鹿児島大学	○	○	○	53	33.8%		101.8%	100.0%	100.0%				2.77	3.05	2.89		88.5%	82.7%	92.0%		81.8%	70.9%	80.0%	
12 九州歯科大学	○			95	20.8%	●	100.0%	100.0%	100.0%				3.46	3.95	4.83		93.2%	93.5%	80.7%		82.1%	85.4%	73.7%	
13 北海道医療大学	○	○		80	33.3%		50.0%	47.7%	67.5%	●			1.11	1.10	1.14	●	75.7%	75.3%	82.3%	●	56.2%	55.1%	43.8%	●
14 岩手医科大学	○			57	28.8%		60.0%	91.2%	61.4%	●			1.05	1.04	1.03	●	63.0%	64.8%	77.4%	●	40.0%	46.3%	51.3%	●
15 奥羽大学	○			96	20.0%	●	33.3%	25.0%	16.7%	●			1.04	1.05	1.00	●	59.8%	79.2%	67.6%	●	42.7%	57.9%	37.8%	●
16 明海大学	○	○	○	120	25.0%	●	79.2%	105.8%	102.5%		●		1.01	1.17	2.94		64.5%	88.5%	80.0%	●	51.7%	68.3%	49.2%	●
17 東京歯科大学	○			128	20.0%	●	100.0%	100.0%	100.0%				1.88	3.19	3.63		93.4%	86.4%	98.4%		71.9%	68.0%	76.6%	
18 昭和大学	○			96	20.0%	●	110.8%	100.0%	100.0%				2.52	2.69	2.43		79.8%	81.7%	82.5%	●	71.9%	59.4%	66.7%	
19 日本大学	○	○	○	128	20.0%	●	100.0%	100.0%	118.8%				2.04	1.38	1.38	●	83.7%	73.7%	76.3%	●	80.5%	63.3%	74.2%	
20 日本大学松戸歯学部	○	○		115	28.1%		75.8%	70.3%	101.7%			●	1.04	1.05	1.21	●	78.8%	78.1%	88.6%	●	53.9%	57.0%	61.7%	●
21 日本歯科大学	○			128	20.0%	●	100.0%	106.1%	100.0%				1.77	1.96	1.99	●	88.6%	82.9%	87.4%		64.1%	55.5%	57.8%	●
22 日本歯科大学新潟生命歯学部	○	○		60	50.0%		60.4%	67.1%	128.3%			●	1.15	1.33	1.27	●	86.1%	86.2%	73.9%		51.0%	49.0%	35.4%	●
23 神奈川歯科大学	○	○		100	37.5%		63.3%	52.5%	81.0%	●			1.08	1.04	1.04	●	71.8%	72.4%	69.3%	●	48.3%	55.8%	42.9%	●
24 鶴見大学	○	○		115	28.1%		59.4%	75.8%	65.2%	●			1.03	1.25	1.24	●	77.0%	77.0%	81.3%	●	53.9%	61.7%	53.9%	●
25 松本歯科大学	○	○	○	80	33.3%		43.8%	56.3%	147.5%			●	1.08	1.00	1.19	●	59.1%	73.1%	50.0%	●	31.6%	28.6%	22.5%	●
26 朝日大学	○	○	○	128	20.0%	●	82.8%	102.3%	101.6%			●	1.02	1.16	1.77	●	77.7%	68.9%	79.1%	●	59.4%	49.2%	50.8%	●
27 愛知学院大学	○			128	20.0%	●	100.0%	94.5%	91.4%	●			1.66	1.15	1.16	●	76.2%	89.5%	83.2%		64.8%	74.2%	70.3%	
28 大阪歯科大学	○	○	○	128	20.0%	●	100.0%	100.0%	100.0%				2.09	2.05	1.63		81.1%	79.0%	64.0%	●	75.0%	61.7%	47.7%	●
29 福岡歯科大学	○	○		96	20.0%	●	84.4%	95.8%	99.0%	●			1.01	1.13	1.13	●	84.0%	72.2%	72.6%	●	76.0%	64.6%	64.6%	
合計	21	13	6	2427	27.8%	11	84.7%	87.8%	95.4%	7	2	3	1.74	1.90	2.02	13	81.6%	81.8%	81.4%	13	64.4%	62.8%	59.7%	12

指標
●: 指標に該当する大学

削減率28%未満
①28%未満

充足率100%未満、100%より上
①23、24年度連続で100%未満
②23、24年度連続で100%超
③23、24年度連続で100%以外(①、②を除く。)

競争倍率2未満
①23、24年度連続で2倍未満

国家試験合格率(新卒)平均未満
①過去3年間のうち2年以上平均未満
国家試験合格率平均未満
①過去3年間のうち2年以上平均未満

H24.5 文部科学省医学教育課調べ(H24.12.11)

平成24年度フォローアップ調査における小委員会の所見

No	大学名	書面 審査	ヒア リング	実地 調査	平成22年度フォローアップ調査以降の 改善状況	平成24年度フォローアップ調査における 指摘事項
1	北海道大学					
2	東北大学	○	-	-		
3	東京医科歯科大学					■入学定員(募集人員)超過を是正すること。
4	新潟大学					
5	大阪大学					
6	岡山大学					
7	広島大学					
8	徳島大学					
9	九州大学	○	○		<p>■診療参加型臨床実習の充実のため、ポートフォリオ及び評価シートの作成やスキルスラボを活用したシミュレーション実習の導入、Advanced OSCEトライアルの導入などに取り組み始めており、今後の改善が期待できる。</p> <p>■しかし、自験症例数を増加させるための患者確保や診療参加型臨床実習の充実に対する教員の意識改革に更に努めることが望まれる。</p>	■診療参加型臨床実習の更なる充実と臨床能力の担保につながる評価方法の確立に努めること。
10	長崎大学					
11	鹿児島大学	○	○	○	<p>■入学定員超過は是正されている。</p> <p>■診療参加型臨床実習の充実のため、屋根瓦方式による指導体制を導入など、仕組みを整えているところであり、改善の努力は認められるものの、自験症例数の増加につながっておらず、更なる改善が望まれる。</p>	■診療参加型臨床実習の更なる充実と臨床能力の担保につながる評価方法の確立に努めること。
12	九州歯科大学	○				
13	北海道医療大学	○	○		<p>■優れた入学者の確保については、基礎学力の担保に向けた更なる取組が望まれる。</p> <p>■診療参加型臨床実習の充実のため、歯科内科クリニックの活用、臨床実習手帳の充実、シミュレーション実習による補完などに取り組んでおり、改善努力は認められるものの、地理的問題や患者数の問題から、患者数の絶対数が不足しており、自験症例数の増加は限定的である。</p>	<p>■優れた入学者の確保や最低修業年限での国家試験合格率の向上に努めるとともに、入学定員の在り方を含め検討すること。</p> <p>■診療参加型臨床実習の更なる充実と臨床能力の担保につながる評価方法の確立に努めること。</p>
14	岩手医科大学	○	-	-		
15	奥羽大学	○	-	-		
16	明海大学	○	○	○	<p>■入学定員(募集人員)を超過して入学させている。</p> <p>■国家試験合格率の向上等のため、基礎学力向上のための補講や個別指導等に取り組んでいるが、入学時点で基礎学力を担保するための取組や留年率を下げるための取組が望まれる。</p>	<p>■入学定員(募集人員)超過を是正すること。</p> <p>■優れた入学者の確保や最低修業年限での国家試験合格率の向上に努めるとともに、入学定員の在り方を含め検討すること。</p>
17	東京歯科大学	○				
18	昭和大学	○				
19	日本大学 歯学部	○	○	○	<p>■入学定員(募集人員)を大幅に超過して入学させている。</p> <p>■診療参加型臨床実習の充実のため、臨床実習期間の延長やAdvanced OSCEの実施等に取り組んでいるが、自験の実施は、診療科や指導医により温度差が見られ、臨床実習全体を統括・調整するシステムになっておらず、自験症例数の増加につながっていない。</p>	<p>■入学定員(募集人員)超過を是正すること。</p> <p>■診療参加型臨床実習の更なる充実と臨床能力の担保につながる評価方法の確立に努めること。</p>
20	日本大学 松戸歯学部	○	○		<p>■募集人員を超過して入学させている。</p> <p>■優れた入学者の確保のため、平成24年度入学定員(募集人員)を削減するとともに、平成25年度入試では、大学入試センター試験を利用した試験を3月に実施するなど、改善に向けて取り組んでいる。</p> <p>■診療参加型臨床実習の充実のため、平成25年度を目標に一口腔単位で自験を行う予定としており、今後の改善が期待できる。</p>	<p>■募集人員超過を是正すること。</p> <p>■優れた入学者の確保に努めるとともに、入学定員の在り方を含め検討すること。</p> <p>■診療参加型臨床実習の更なる充実と臨床能力の担保につながる評価方法の確立に努めること。</p>

No	大学名	書面 審査	ヒア リング	実地 調査	平成22年度フォローアップ調査以降の 改善状況	平成24年度フォローアップ調査における 指摘事項
21	日本歯科大学	○				
22	日本歯科大学 新潟生命歯学部	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ■優れた入学者の確保のため、入学定員（募集人員）の削減を実施し、改善に取り組んでいる。 ■一方、募集人員を大幅に超過して入学させている。 ■診療参加型臨床実習の充実のため、屋根瓦方式による指導体制を実施に取り組んでおり、自験症例数が増加するなど、改善の傾向が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■募集人員超過を是正すること。 ■優れた入学者の確保や最低修業年限での国家試験合格率の向上に努めるとともに、入学定員の在り方を含め検討すること。 ■診療参加型臨床実習の更なる充実と臨床能力の担保につながる評価方法の確立に努めること。
23	神奈川歯科大学	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ■優れた入学者の確保については、入学時の基礎学力の担保に関する取組がほとんど行われていない。 ■診療参加型臨床実習の充実のため、実習期間の延長（1.5倍）やAdvanced OSCEの実施に取り組んでいるとともに、臨床実習の主体は自験が占めており、改善の効果が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■優れた入学者の確保や最低修業年限での国家試験合格率の向上に努めるとともに、入学定員の在り方を含め検討すること。
24	鶴見大学	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ■診療参加型臨床実習の充実のため、診療参加型臨床実習補完のためのシミュレーション実習の活用、評価シートの導入、患者確保などに取り組んでおり、今後の改善が期待できる。 ■学生の学力向上のための取組については、学生に考えさせる教育方法を充実させるなどの更なる改善が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ■優れた入学者の確保や最低修業年限での国家試験合格率の向上に努めるとともに、入学定員の在り方を含め検討すること。 ■全体として、学生の学力向上の実が上がるよう、教育内容・方法の改善に努めること。
25	松本歯科大学	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ■募集人員を大幅に超過して入学させている。 ■平成25年度の募集人員を増加させるとしている。 ■優れた入学者の確保や国家試験合格率の向上、診療参加型臨床実習の充実のため、教育カリキュラムの改訂などに取り組んでいるが、即座に効果は見られないことから、長期的なフォローアップが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ■募集人員超過を是正すること。 ■歯科医師抑制に関する閣議決定（S61.7、H10.5）及び質の高い歯科医師を養成する観点を十分に踏まえ、平成21年度に設定した募集人員を遵守するとともに、今後の入学定員（募集人員）の在り方について、厳正に対応すること。 ■優れた入学者の確保や最低修業年限での国家試験合格率の向上に努めるとともに、入学定員の在り方を含め検討すること。 ■診療参加型臨床実習の更なる充実を努めること。
26	朝日大学	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ■入学定員（募集人員）を超過して入学させている。 ■優れた入学者の確保のための基礎学力の担保が十分になされていない。 ■学生の学力向上のため、チューターによる個別指導や補講の実施、歯科医学教育推進センターの設置等に取り組んでいるが、抜本的な改善にはつながっていない。 ■診療参加型臨床実習の充実については、Advanced OSCE が登院前OSCEと同じ内容であり、自験症例数も少ないなど、改善のための取組が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ■入学定員（募集人員）超過を是正すること。 ■優れた入学者の確保や最低修業年限での国家試験合格率の向上に努めるとともに、入学定員の在り方を含め検討すること。 ■全体として、学力向上の実が上がるよう教育内容、方法の改善に努めること。 ■診療参加型臨床実習の更なる充実と臨床能力の担保につながる評価方法の確立に努めること。
27	愛知学院大学	○				
28	大阪歯科大学	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ■国家試験合格率の向上のため、特別アドバイザー、教育アドバイザー等の配置に取り組んでいるが、抜本的な改善にはつながっていない。再教育に多くの労力が費やされることから、入学者選抜において基礎学力を担保するための取組が望まれる。 ■診療参加型臨床実習の実習のため、自験症例の必須項目を増加させる等により自験数が増えつつあり、改善の効果が見られる。しかし、改善が進んでいない診療科もあがえ、また、実習に限らず、教員によって授業の方法や試験の難易度等に差があることがうかがえたことから、FDの実施等により、教育の均質化を図ることが望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■最低修業年限での国家試験合格率の向上に努めるとともに、入学定員の在り方を含め検討すること。 ■診療参加型臨床実習の更なる充実と臨床能力の担保につながる評価方法の確立に努めること。
29	福岡歯科大学	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ■診療参加型臨床実習の充実のため、シミュレーション実習の活用による補完や診療科評価シートのオンライン化、患者確保に取り組んでおり、改善の傾向が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■なし

※ 被災3県の歯学部である東北大学、岩手医科大学、奥羽大学については、復興関連業務の負担を考慮し、ヒアリング、実地調査を実施していない。なお、3大学については書面審査により改善の進捗状況を把握している。

今回のフォローアップ調査で参考になると思われる
改善の取組事例及び特色ある取組

1. 参考になると思われる改善の取組事例

【診療参加型臨床実習の改善・充実、到達目標の設定、臨床能力評価の状況】

- カリキュラムを見直し、臨床実習期間を1.5倍に延長（神奈川歯科大学）
- 卒業の必須要件とする自験ケース数を増加（日本歯科大学新潟生命歯学部、大阪歯科大学）
- 自験による臨床実習を補足するため、シミュレーション実習を導入（鶴見大学）
- 患者の同意を口頭から書面に切り替え、より丁寧な対応を行う等により信頼関係を築く努力をした結果、9割以上の患者が同意（福岡歯科大学）

【優れた入学者の確保】

- 入学定員又は募集人員の削減（北海道医療大学、日本大学松戸歯学部、日本歯科大学新潟生命歯学部、神奈川歯科大学、鶴見大学）
- 平成25年度入試において、大学入試センター試験を課した試験を3月に実施し、入学者の基礎学力を担保（日本大学松戸歯学部）

【学生の学力向上、留年率の低減、最低修業年限での国家試験合格率の向上】

- 試験問題は、単純想起型や多肢選択式だけでなく、学生に考えさせる問題とする。
- 外部委員を入れた客観的なAdvanced OSCEを実施し、臨床能力の質を担保する。
- 入学者選抜の段階で基礎学力を備えた学生を選抜する。

【研究者養成】

- 一人当たり年間35万円の競争的研究費を設け、第2～4年次生の約42%がこれを受給（日本大学歯学部）
- 海外姉妹提携校への短期海外研修（1～2週間）を実施し、第2～5年次生の希望者の中から学業成績の優秀者を選抜し派遣（大阪歯科大学）

2. 各歯学部の特徴ある教育

<医科・歯科連携>

- 全身疾患を理解する歯科医師養成のため、関連医学の充実や診療参加型臨床実習における総合診断の強化を図った（鶴見大学）
- 全人的な医療を理解し口腔疾患に対応できる歯科医師育成のため、一般医学教育の充実や医歯学連携実習の新設を柱としたカリキュラムに改訂（福岡歯科大学）
- 大学附属病院の医科診療科における医科実習を実施（福岡歯科大学）
- 離島巡回診療同行実習（5、6年生）を実施（鹿児島大学）
- 昭和62年から訪問診療を開始し、学生を同行させ、医科・歯科を中心とした多職種連携教育を実施（日本歯科大学新潟生命歯学部）

<多職種連携>

- 医学科、保健学科、生命科学科、薬学部と協同で、医療倫理、薬害、インフォームド・コンセント、ロールプレイ実習等を取り入れた統合教育を実施（九州大学）
- 医療系総合大学という環境から、多職種連携を担える歯科医師育成を念頭に、薬学、看護学、臨床福祉学、臨床心理学の各専門教員による教科や多職種連携を含む臨地実習を開講（北海道医療大学）

<その他>

- 「間違い探しを基盤とする洞察力育成医療教育」事業及び「医療コンテンツプロデューサー育成事業」等により、e-learning を積極的に導入（九州大学）
- 世界で初めて難民支援歯科診療を2年前より実践しており、学生が国際的な視野を持てるよう努めている（鶴見大学）

平成24年度フォローアップ調査の実施経過

- 平成21年1月 「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議第1次報告
～確かな臨床能力を備えた歯科医師養成方策～」公表
- 平成22年9月 歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議の下に「フォロー
アップ小委員会」設置
- 平成23年5月 「平成22年度フォローアップ調査まとめ」公表、各歯学部へ送付

平成24年

- 7月17日 **第12回調査研究協力者会議**
・フォローアップ調査実施要領等の決定
- 7月下旬～ フォローアップ小委員会による書面審査
- 8月30日 **第5回フォローアップ小委員会**
・ヒアリング対象大学の決定
- 9月27～28日 フォローアップ小委員会によるヒアリング
- 9月28日 **第6回フォローアップ小委員会**
・実地調査対象大学の決定
- 10月 9日 **第13回調査研究協力者会議**
・小委員会からフォローアップ調査の実施状況の報告
- 10月29日～11月13日 フォローアップ小委員会による実地調査
- 11月27日 **第7回フォローアップ小委員会**
・「平成24年度フォローアップ調査まとめ」の決定
- 12月11日 **第14回調査研究協力者会議**
・小委員会から「平成24年度フォローアップ調査まとめ」の報告

フォローアップ調査における診療参加型臨床実習に関する用語の定義

◆診療参加型臨床実習 ※1

患者を全人的・全身的に捉える態度を養うとともに、歯科医師として必要な基本的臨床能力を習得するため、患者の同意を得て、指導歯科医のもとで実際の歯科医療に携わり歯科医行為を行う臨床実習

◆見学 ※2

原則として水準4※3に相当する診療内容について、指導歯科医の歯科医療行為を見学する実習

◆介助 ※2

原則として水準3※3に相当する診療内容について、指導歯科医の歯科医療行為を介助する実習

◆自験 ※2

原則として水準1および2※3に相当する診療内容について、指導歯科医の管理・監督の下で、学習者が実際に歯科医行為を経験する実習

【フォローアップ小委員会における自験の定義】

- (1) F領域※3の各項目について、到達目標（SBOs）を一通り実施した場合に1症例とする。
- (2) 到達目標（SBOs）の各項目のうち、患者の同意が得られない等によりやむを得ず自験ができない場合、シミュレーター等を用いた代替実習により補完した場合は自験相当とみなすことができる。（ただし、患者確保のために最大限努力することが大原則。）以下同じ。）
- (3) 学習者が行う歯科医行為を、指導医もしくは研修歯科医が介助した場合も自験相当とみなすことができる。
- (4) 到達目標（SBOs）の各項目（丸番号）は番号順に実施するものとする。
ただし、患者の同意の都合等によりやむを得ず番号順に実施できない場合は、一連の歯科医行為の流れを学習者に理解させるための補完的な教育を別途行う等により、到達目標（SBOs）を一通り実施したものと見なすことができる。

※1 出典：歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議第1次報告（平成21年1月）

※2 出典：「診療参加型臨床実習コア・カリキュラム事例集（案）」（平成23年度先導的の大学改革推進委託事業「医学・歯学教育の改善・充実に関する調査研究」歯学調査研究チーム）

※3 「水準1～4」「F領域」は、歯学教育モデル・コア・カリキュラム平成22年度改訂版に記載

歯学教育の改善・充実に係る調査研究協力者会議
フォローアップ小委員会名簿

あらき あきずみ
荒木 章純

愛知学院大学歯学部教授

いちのへ たつや
一戸 達也

東京歯科大学水道橋病院長

かしわだ としあき
柏田 聰明

恵愛歯科院長

○ こやの きよし
古谷野 潔

九州大学歯学部教授

さいとう たかし
斎藤 隆史

北海道医療大学教授

◎ まえだ たけやす
前田 健康

新潟大学歯学部長

計 6 名

◎は主査 ○は主査代理

※ 五十音順（敬称略）